

福島第一原子力発電所の状況

2016年2月15日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (2/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約2.6 m ³ /h	14.3	1.10 kPa g	A系： 0.04 vol %
		炉心スプレイ系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	18.8	3.75 kPa g	A系： 0.02 vol %
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	17.0	0.25 kPa g	A系： 0.07 vol %
		炉心スプレイ系：約2.3 m ³ /h			B系： 0.08 vol %

※作業に伴いデータ欠測

【1号機】

・原子炉格納容器ガス管理設備は、当該設備の信頼性向上を目的に改造工事を行うため、設備停止を計画している。当該設備は、特定原子力施設に係る実施計画「Ⅲ 特定原子炉施設の保安」(以下、「実施計画」という)第1編第24条において、運転上の制限として「原子炉格納容器ガス管理設備の放射線検出器が1チャンネル動作可能であること」が求められている。

そのため、設備停止中は、上記の運転上の制限を満足しない状態となることから、実施計画第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に運転上の制限外に移行して作業を実施する。

当該設備の停止予定日は以下のとおりであり、作業日毎に当該設備を停止し、作業終了後に復旧する。

<停止予定日>2016/2/8、9、10、11、12

2016/2/8 9:41～作業開始、14:42 作業終了、17:05 適用解除。

2016/2/9 9:40～作業開始、15:32 作業終了、17:16 適用解除。

2016/2/10 9:37～作業開始、15:01 作業終了、17:22 適用解除。

2016/2/11 9:30～作業開始、15:03 作業終了、17:23 適用解除。

2016/2/12 9:43～作業開始、14:41 作業終了、16:55 適用解除。

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (2/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	10.8 °C ^{*1}
2号機	循環冷却システム	運転中	25.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	20.2 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	- 2 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘドランジンの注入を適宜実施。

※1 SFP 代替冷却システム停止中のため、至近のデータ(2/5 11:00)を記載。

※2 作業に伴いデータ欠測。

【4号機】

・2016/2/9 6:25 頃、SFP代替冷却系の漏えいを示す警報^{*1}が発生し、ポンプが自動停止。現場を確認し、同日6:39 に漏えい等の異常が無いことを確認。なお、SFP内には燃料は保管されていない。その後の現場調査においても、SFP系に漏えい等の異常は確認されていない。当該警報が発生した原因を調査するため、SFP系のトレンドデータを確認したところ、電気品点検に伴って計装配管の凍結防止ヒーター用電源を「切」にした際に、SFP系出口流量の指示が低下していることを確認。計装配管の凍結防止ヒーター用電源「切」とSFP系出口流量の指示低下との因果関係については、計装配管内に空気が残留していた状況において、凍結防止ヒーター用電源を「切」にしたことで、当該計装配管内に温度変化が生じ、出口流量計(差圧伝送器)に影響^{*2}を与えたため、SFP出口流量の指示が低下した可能性が高いと考えている。その後、当該計装配管内の空気抜きを実施した上で、2/12、16:28 よりSFP一次系ポンプを起動して確認運転を行っていたが、運転状態に異常はなく、入口/出口流

量も安定していることから、継続して運転を行うこととした。なお、計装配管の凍結防止ヒーター用電源については、電気品点検が終了した後(2/9)に電源を「入」にしている。

*1: SFP系の入口/出口流量の差が一定以上になった場合、系統漏えいの可能性があることから警報を発生させるとともに、一次系ポンプを自動停止して系統を隔離させる。

*2: 温度変化による水と空気の膨張率の差により、差圧伝送器の高圧側と低圧側の計装配管で一時的な差圧変動が発生したものと推測。

<3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (2/15 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	運転中*1	運転中*1	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<4. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要となる工事が完了。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- 2016/1/21～ H4エリアにおいてフランジ型タンクの解体を開始。
- 2016/2/9～ 3号機原子炉建屋1階にて、1/26より高所用除染装置(ドライアイスブラスト除染装置)による高所部の吸引除染を実施していたが、準備が整ったことから、ドライアイスブラスト除染を開始。
- 2016/2/8～ 構内において発生した雑固体廃棄物を焼却処理するため、雑固体廃棄物焼却設備を設置し、汚染のない模擬廃棄物を用いた焼却試験を進めてきたが、当該設備の性能に異常のないことが確認できたことから、2/8 16:05～汚染のある雑固体廃棄物を用いた焼却試験(ホット試験)を実施。
- 2016/2/13 雑固体廃棄物焼却設備については、2/8より焼却試験を行っていたが、A系排ガス冷却器の点検口から水が滴下していることを確認したことから、2/13 12:38に停止操作を行った。なお、モニタリングポスト等の指示値については、有意な変動は確認されていない。
- 2016/2/14 地下水バイパス設備において、2/14 9:47に「地下水バイパス一時貯留タンクGr2水位高高警報」が発生し、一時貯留タンクへの移送ポンプが自動停止した。念のため揚水ポンプを手動停止し、地下水バイパスの汲み上げをすべて停止した。その後、10:26、現場にて当該タンクおよび移送ポンプに異常がなく漏えい等がないことを確認した。なお、地下水バイパス一時貯留タンクGr2は3基の連結されたタンクで構成され、それぞれに水位計が設置されており、2基のタンク水位計に異常は見受けられない。地下水バイパス設備の揚水ポンプおよび移送ポンプ全台が停止したこと以外に本件による作業への影響はない。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。
- 2016/1/8～ 支障鉄骨の解体作業を開始。

【サブドレン他水処理施設の状況】

- 2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え。
- 一時貯水タンクEの当社および第三者機関による分析結果[採取日2/8]は同等の値であり、共に運用目標値を満足していることから、2/14 10:15～15:49 海洋への排水を実施。排水量は818 m³。

【地下水バイパスの状況】

- 地下水バイパス揚水井No.1～12のサンプリングを継続実施中。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- ・今回の分析結果(採取日 2/14)については、悪天候により採取を中止した。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・今回の分析結果(採取日 2/14)については、悪天候により採取を中止した。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上